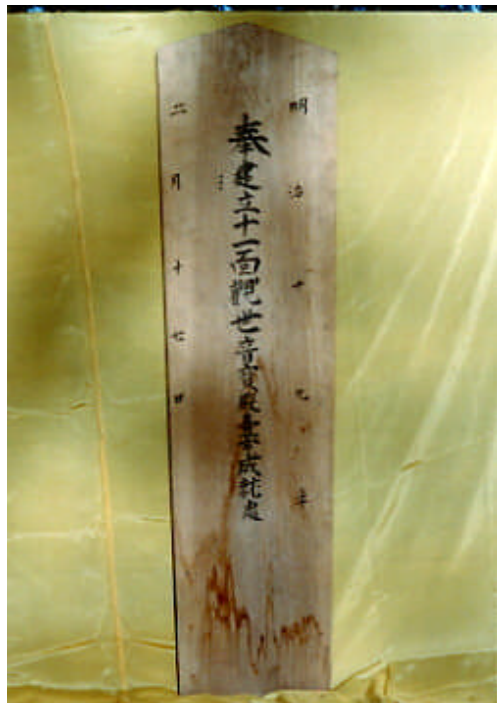


町指定文化財（史料）

町指定文化財（史料）について紹介します。

★真清田神社棟札一号～七号



呼 び 方／ますみだじんじゃむなふだ
種 別／町指定文化財（史料）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字田子字下田子
真清田神社蔵

所 有 者／真清田神社管理者

解 説／「棟札」というのは社寺の建築、改築、修理に際して、その意義や経過、それに工事に携わった人の氏名などを記録した木板で、たいていは五角形をしている。当社には観音堂時代のもも含めて8枚（1枚が未指定）が残されていて、最古のものには正保三年（1646）の年号がある。
写真は、七号。

★釜淵観音堂棟札一号～四号



呼 び 方／かまぶちかんのんどうむなふだ
種 別／町指定文化財（史料）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字田子字七日市
釜淵観音堂蔵

所 有 者／釜淵観音堂管理者

解 説／第1号は明和元年（1764）、第2号は寛政9年（1797）、第3号は文政6年（1829）、第4号は嘉永6年（1853）のもの。いずれも境内に祀られていた神明宮の再建完了を期して奉納されたものである。

写真は、四号。

★千体仏完成記念碑



呼 び 方／せんたいぶつかんせいきねんひ
種 別／町指定文化財（史料）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字田子字七日市
釜淵観音堂蔵

所 有 者／釜淵観音堂管理者

解 説／釜淵一族の出身である奇峰学秀が、
祖先・両親の供養のために千体仏を完成したと
きの祈念碑である。

享保七年（1722）の制作。

★真田泰幸遊歴日記第十号



呼 び 方／さなだたいこうゆうれきにつき
種 別／町指定文化財（史料）

選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)

所 在 地／田子町大字関字関

所 有 者／個人

解 説／明治十年、西南戦争の際、西郷隆盛に呼称して政府転覆を企てた真田太古（大古、泰古、大幸、泰幸）の日記。明治八年五月十一日の在京当時から帰郷後の明治九年九月までの動向が記されている。一号から九号までは、事件直後に焼却されたと言われ、この日記は現存する太古の唯一の遺品である。

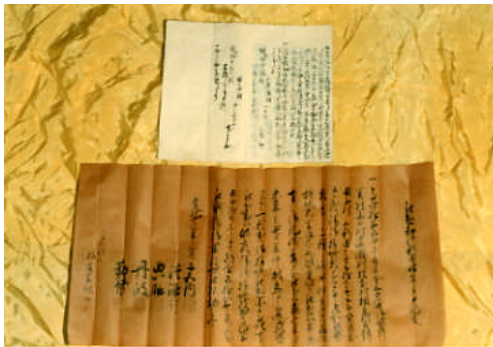
★梅内文書



呼 び 方／うめないもんじょ
種 別／町指定文化財（史料）
選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)
所 在 地／田子町大字田子字土橋道ノ上
所 有 者／個人

解 説／同家の先祖は代々三戸代官所の下役を務め、当地方の行政に深く関わっていた。文書は職務上の記録が多く、特に幕府巡見使関係の記録は第一級史料として貴重である。中でも宝暦11年（1761）に梅内富右衛門が作成した巡見使一行の休憩所割り当て図は、当時の田子市街の構成を詳細に描いていて、極めて珍しい資料である。

★佐藤家文書



呼 び 方／さとうけもんじょ
種 別／町指定文化財（史料）
選定年月日／1984. 03. 06(昭和59. 03. 06)
所 在 地／田子町大字田子字天神堂向
所 有 者／個人

解 説／同家に残されている文書は、その多くは新田開発に関するもので、そのほかに家系に関するもの、武家の日常生活に関するものなど多彩であり、当時の田子町の生活を物語る貴重な文書である。

★北地吟哦十首献額



呼 び 方／きたちぎんがじゅっしゅけんがく
種 別／町指定文化財（史料）
選定年月日／1985. 07. 04(昭和60. 07. 04)
所 在 地／田子町大字原字原
諏訪神社蔵
所 有 者／諏訪神社管理者

解 説／幕末に盛岡藩家老・東中務に仕えていた工藤祐知が、中務の命を受けて津軽に潜入し、その状況を十篇の漢詩にまとめ一枚板に墨書して献額したものである。祐知が密行した津軽各地の風物や、所感を詠じている。

■お問い合わせ先

田子町教育委員会 教育課 社会教育グループ

郵便番号 039-0201

青森県三戸郡田子町大字田子字柏木田169

電 話 : 0179-20-7070

F A X : 0179-20-7075

E-mail : takko-kyoiku@town.takko.aomori.jp